

重文本堂修復

落成法要



平成24年4月29日(日)

安来清水寺

重文本堂修復落慶法要

ご案内



平成23年3月より文化庁・安来市のご指導、補助を受けて進めておりました重要文化財本堂屋根改修工事はこの度、魔事無く完工することができました。これも偏にご本尊十一面観音様のご加護と関係各位のご尽力、ご芳情の賜物と感謝申し上げます。今後も文化財の保護振興に微力をささげたいと存じますれば、尚一層のご指導をお願い申し上げます。

4月29日には姫路市 書写山圓教寺山主・大樹探題大僧正を拝請して、本堂の落慶法要を執り行いますので、皆様のご参拝をお待ちしております。

合掌

瑞光山清水寺

第六世貫主 善圭

- ◇ 御列開始 9時40分
大導師、参拝者に念珠加持
供養塔婆加持
湯立神事にて浄め
稚児への加持と記念撮影

◇ 落慶式

- 10時
・復活能 奉納
・安来節 奉納
- 12時

◇ 撒餅式 本堂回廊

- 13時
・能の公演 於：護摩堂
- ・安来節公演 於：護摩堂
- 15時 催し終了



本堂での落慶法要

式衆（大導師、三千院門主、三井寺管長、曼殊院門主、随喜寺院、十人百姓）による落慶法要。

撒餅式 ▶

清水町、九重町、門生町より奉納される祝い餅・俵餅など約5000個が撒かれます。



稚児行列



島根県文化財に指定される

摩多羅神 奉納『復活の舞』

本像は胎内銘により1329年に奈良の仏師・覚清が制作したことが知られ、制作年代が知られる最古のものです。摩多羅神像の作例の基準作として極めて重要な位置を占め、古くは摩多羅神に祈念しなければ往生できないと言われたほど霊威ある神とされ、後には芸能の神としても信仰を集め、様々に謎を秘めた、中世の神です。この度は落慶法要の中で摩多羅神に、「能・復活の舞」を奉納いたします。